



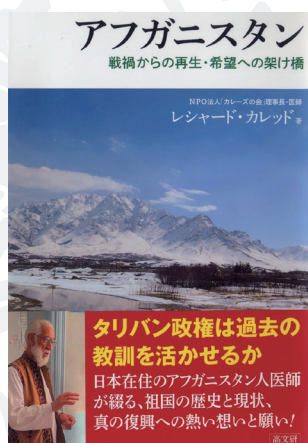
Title	書を抱えてフィールドに出よう！
Author(s)	戸田，登美子；福井，沙織
Citation	目で見るWHO. 2024, 87, p. 36-36
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95312
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

書を抱えてフィールドに出よう!



著者のレシャード・カレド先生は、アフガニスタン・カンダハールで生まれ育った後、日本の大学に留学して医師免許を取得、現在は医師として地域の医療に携わる傍ら、アフガニスタンを支援する NGO カレーズの会の理事長としても尽力されています。本書ではそのレシャード先生の目線からアフガニスタンの歴

『アフガニスタン 戦禍からの再生・希望への架け橋』

編 者：レシャード・カレド
出版社：高文研 2023年 6月発行

史、現状、そして医療の在り方について語られています。

私たちが聞き取るアフガニスタンは、国内や欧米の政治的な影響を受けて語られた姿かもしれません。レシャード先生は、ご自身の全財産を投げうって医薬品を買って現地に赴き、祖国の医療と教育の復興に長年取り組んでこられました。本書ではレシャード先生が、当事者としてアフガニスタンの今に至る経緯や社会情勢、保健医療の現状などについて語りかけるようにわかりやすく説明しています。また、パシヤワール会の現地代表で、アフガニスタンでの活動中に亡くなられ

た中村哲先生とのエピソードも紹介されています。

紡がれた言葉からは、命がけでアフガニスタンのために尽くしてこられたレシャード先生の祖国や人々への温かさや優しさ、破壊され尽くした大地への哀しさなどが伝わり、読者の胸を打ちます。そして、私たちが知らなかった、あるいは知っていても遠い国の出来事として捉えていたアフガニスタンが新たな実像をもって迫ります。私たちに何ができるか、そして関心を持つことの大切さを改めて問いかける一冊です。

(紹介者：戸田登美子)



グローバルヘルスは保健医療分野だけではなく、様々な専門性、アプローチが求められる奥深い世界であり、グローバルヘルスに貢献できる道はたくさんあることを本書は示しています。グローバルヘルスとは何か? という基本的な概要から、グローバルヘルスを動かしている主要アクター (国連機関、政府援助機関、民間セクター、NGO など)、そして求め

『世界に飛びたて! 命を救おう!』 (グローバルヘルスを志す人 リーダーを目指す人のために)

編 者：グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) CEO 国井修
出版社：南山堂 2023年4月発行

られる人材、ライフデザイン、ワークライフバランスといった多岐にわたるテーマをインターネットなどだけでは得られない、著者自身やグローバルに活躍されている友人、知人の体験、リアルな情報を盛り込んだ、唯一無二のグローバルヘルス指南書となっています。

ここでは、「リーダーを目指す人」としても必要な知識、技術、コンピテンシーを培う方法が丁寧に解説されている点も強調したいと思います。著者自身が、グローバルファンドの戦略・投資・効果局長としてあらゆる国籍の部下をまとめるリーダーを務めた経験、そして世界のリーダーたちから学んだことから、グロ

ーバルヘルス分野に限らない、より良いチーム、組織づくりのヒントを得ることができます。

また仕事も生活も含めて人生全体を考える「ライフデザイン」を作ることをお勧めされており、著者がどのような選択をしながら今までに至っているか、経験を踏まえたアドバイスもたくさん盛り込まれています。グローバルヘルスを志す人はもちろんですが、働いているすべての人にとっても自分と向き合い、そして新たな世界に飛び出すきっかけにもなる、そんな背中を押してくれる 1 冊です。

(紹介者：福井沙織)